

# 日蓮宗のおつとめ

お経本の一文字一文字はお釈迦様の命です  
大切に扱いましょう

# 目 次

---

寿	欲	寿	方	開	勸	道	場	觀	日蓮宗とは
量	令	便	品	偈	請	場	觀	請	●
品	衆	(訓)	品	偈	●	●	●	●	●
(訓)	●	●	●	●	●	●	●	●	●
18	13	8	5	3	2	2	2	2	1

奉	四	回	寶	唱	如說修行鈔	運	想
送	誓	向	塔	題	●	●	●
●	●	●	●	●	●	●	●
●	●	●	●	●	●	●	●
●	●	●	●	●	●	●	●
41	41	34	33	32	31	31	29

# 日蓮宗とは

宗 祖

日蓮聖人（一二二二～一二八二）  
にちれんしょにん

御本尊

久遠の本師釈迦牟尼仏（「如來壽量品」で顯現）  
くおん ほんし しゃか むにぶつ

教 典

法華経（鳩摩羅什訳『妙法蓮華経』）  
ほけきょう くまらじゆう

祖 山

身延山久遠寺（日蓮宗總本山）  
みのぶさん くおんじ

お題目「南無妙法蓮華経」には、法華経のすべてが集約されています。

私たちは、日蓮聖人が残されたお題目を唱え、学び、伝えていき、世界平和を願い、お釈迦様・日蓮聖人の御心にかなつた人間になる努力をしましょう。

道

場

觀

(今自分の座っているところは尊い場所であることを心得る。)

當に知るべし、この処は則ちこれ道場  
なり。諸仏此に於て阿耨多羅三藐三菩薩  
提を得、諸仏此に於て法輪を転じ、諸  
仏此に於て般涅槃したもう。

勸

請

(仏法僧の三宝並びに聖衆をこの道場にお迎えし、その御加護を祈念する。)

謹み敬つて勸請し奉る、南無久遠実成  
本師釈迦牟尼仏、南無一乘妙法蓮華經、

南無歴代如法の諸天善神等、この道場に影現し  
護法の末法唱導師高祖日蓮大菩薩、宗門  
て法味を納受し給え。  
**開經偈**  
(お経を読誦する心がまえを正す誓いの言葉。)

無上甚深微妙の法は、百千万劫にも遭  
遇たてまつること難し。我れ今見聞し  
受持することを得たり。願くは如來の  
開 経 倍  
むじょうじんじんみみよう  
ほう  
かた  
ひやくせんまんごう  
ねがわ  
によらい  
あ

第一義を解せん。至極の大乗思議す可  
らす。見聞触知皆菩提に近づく。能詮  
は報身、所詮は法身、色相の文字は、  
即ち是れ応身なり。無量の功德皆この  
経に集まり。この故に自在に冥に薰く  
じ密に益す。有智無智罪を滅し善を生  
ず。もしさ信、もしさ謗、ともに仏道  
を成せん。三世の諸仏甚深の妙典なり。

生々世々、值遇し頂戴せん。

## 妙法蓮華經方便品第二

爾時世尊・從三昧・安詳而起・告舍利子  
難解難入・一切聲聞・甚深無量・其智慧門・  
知・所以者何・仏曇親近・百千萬億・所不能  
無數諸仏・尽行諸仏・無量道法・勇猛  
精進・名稱普聞・成就甚深・未曾有法・

隨宣所說 • 意趣難解 • 舍利弗 • 吾從成  
佛已來 • 種種因緣 • 種種譬喻 • 広演言  
教 • 無數方便 • 引導衆生 • 令離諸著 •  
所以者何 • 如來方便 • 知見波羅密 • 皆  
已具足 • 舍利弗 • 如來知見 • 广大深遠 •  
無量無礙 • 力 • 無所畏 • 禪定 • 解脫 •  
三昧 • 深入無際 • 成就一切 • 未曾有法  
舍利弗 • 如來能種種分別 • 巧說諸法

言之辭柔軟・悅可衆心・舍利弗・取要  
止無量無辺・未曾有法・佛悉成就  
舍利弗・不須復說・所以者何・佛  
乃能究竟第一希有・難解之法・唯  
成就是就・第二希有・難解之法・  
佛所成就是就・第三希有・難解之法・  
與佛所成就是就・第四希有・難解之法・  
如是力・如是作・如是相・如是性・如是體  
所謂諸法・如是作・如是相・如是性・如是體  
如是果・如是報・如是因・如是緣  
如是本末究竟等

所謂諸法 • 如是相 • 如是性 • 如是體 •  
如是力 • 如是作 • 如是因 • 如是縁 •  
如是果 • 如是報 • 如是本末究竟等  
所謂諸法 • 如是相 • 如是性 • 如是體 •  
如是力 • 如是作 • 如是因 • 如是縁 •  
如是果 • 如是報 • 如是本末究竟等  
妙法蓮華經如來壽量品第十六

自 我 得 仏 来 所 經 諸 劫 数 無 量 百 千 万

億載阿僧祇  
方現涅槃道  
令入於佛  
我常住於此  
雖近而不見  
咸皆懷恋慕  
質直意柔軟  
時我及衆僧

常說法教化  
爾來無量劫  
而實不滅度  
以諸神通力  
衆見我滅度  
俱出靈鷲山  
而生渴仰心  
一心欲見佛  
為度衆生故

無數億衆生  
常住此說法  
令顛倒衆生  
廣供養舍利  
衆生既信伏  
不自信身命  
我時語衆生

常在此不滅  
余國有衆生  
為說無上法  
我見諸衆生  
令其生渴仰  
神通力如是  
及余諸住處  
我此土安穩

以方便力故  
恭敬信樂者  
汝等不聞此  
沒在於苦海  
因心恋慕  
於阿僧祇劫  
衆生見劫盡  
天人常充滿

現有滅不滅  
我復於彼中  
但謂我滅度  
乃出為說法  
故不出為現身  
園林諸堂閣  
大火爆燒時  
常在靈鷲山

種種寶莊嚴  
諸天擊天鼓  
散仏及大衆  
憂怖諸苦惱  
以惡業因緣  
諸有修功德  
久在此而說法  
乃見佛者

寶樹多華果  
常作衆伎樂  
我淨土不毀  
如是悉充滿  
過阿僧祇劫  
柔和質直者  
為或時為難  
說時為此值

衆生所遊樂  
雨曼陀羅華  
而衆見燒盡  
是諸罪衆生  
則皆見我身  
我不聞三寶名  
說則皆見我身  
我智壽無量

えーこーしょーむーりよー  
慧光照無量  
によーとーうーちーしゃー  
汝等有智者  
ぶつごーじつふーこー<sup>ト</sup>  
仏語實不虛  
じつざいにトごんしー<sup>ト</sup>  
実在而言死  
じつざいにトごんしー<sup>ト</sup>  
救諸苦患者  
くーしょーくーげんしゃー  
以常見我故  
いーじょーけんがーこー<sup>ト</sup>  
隨應所可度  
ずいおーしょーかーどー<sup>ト</sup>  
墮於惡道中  
だーおーあくどうちゅー<sup>ト</sup>

じゅーみょーむーしゅーこー<sup>ト</sup>  
壽命無數劫  
によーとーしーしょーぎー<sup>ト</sup>  
勿於此生疑  
しーしょーぎー<sup>ト</sup>  
如医善方便  
いーいーぜんほーべん<sup>ト</sup>  
無能說虛妄  
いーぼんせーこーもー<sup>ト</sup>  
為凡夫顛倒  
いーぼんぶーてんどー<sup>ト</sup>  
而生憍恣心  
にーしょーきよーしーしん<sup>ト</sup>  
為說種種法  
いーせーしゅーじゅーほー<sup>ト</sup>

くーしゅーごーしょーとー<sup>ト</sup>  
久修業所得  
いーじーおーしー<sup>ト</sup>  
為治狂子故  
いーじーせーぶー<sup>ト</sup>  
我亦為世父  
がーやくいーせーぶー<sup>ト</sup>  
為當斷令永盡  
いーじーだんりょーよーじん<sup>ト</sup>  
久修業所得  
くーしゅーごーしょーとー<sup>ト</sup>  
為當斷令永盡  
いーじーだんりょーよーじん<sup>ト</sup>  
放逸著五欲  
ほーりゅうじゃくごーよく<sup>ト</sup>  
實在而言滅  
じつざいにトごんめつ<sup>ト</sup>  
每自行道  
まいぎょーどー<sup>ト</sup>  
自作是念  
じーさーぜーねん<sup>ト</sup>  
行道不行道  
ぎょーどーふーぎょーどー<sup>ト</sup>

以何令衆生

得入無上道

速成就仏身

欲令衆(訓読)

(くり返す場合は、以何令衆生以下をのばさない)

諸仏世尊は、衆生をしして、仏知見を一開し、めり、清淨なることを一  
得せし、めんと、欲するが、故に、  
世に、一出現したも。衆生に、  
を、一示さんと、一欲するが、一故に、  
に、一出現したも。衆生を、一しして、

仮知見を一悟らし一めんと一欲する  
が一故に一、世に一出現したもう。衆  
生を一し一て一仮知見の一道に一入ら  
し一めんと一欲するが一故に一、世に  
一出現したもう。舍利弗、これを一諸  
仮は一、た一だ一、一大事の一因縁を一  
もつて一の一故に一、世に一出現した  
もうと一なづく一。

三界は一安き一ことなーしー、猶火宅  
のーごとしー。衆苦充満しーてー甚だ  
一怖畏すべしー。常にー生老病死のー  
憂患あーりー。是のー如きらのー火、  
熾然とーしーてーやまづー。如來はー  
已にー、三界のー火宅をーはなれーて  
ー、寂然とーしーてー閑居しー、林野  
にー安処せーりー。今此のー三界はー、

皆是れ一我が一有なり一。その中の一  
衆生は一悉く一こ一れ一我が一子な  
り一。而も一今此処は一、諸の一患難  
多し一。唯我一人の一み一、よ一く一  
救護を一な一す一。  
我化の四衆、比丘・比丘尼、および一  
清信士女を一つかわして一、法師を一  
供養せしめ一、諸の一衆生を一引導し

ーてー、これをーあつめーてー法をー  
きかしーめん。若し人、惡刀杖および  
ー瓦石をーくわえんとー欲せーばー、  
すなわーちー変化のー人をーつかわし  
てー、これがーためにー衛護とーなー  
さん。  
爾の時にー、宝塔のーうちよーりー、  
大音声をーいだしーてー、歎めてーの

たまわく。善哉善哉、釈迦牟尼世尊。  
よーくー平等大慧、教菩薩法、仏所護  
念のー妙法華經をーもつてー、大衆の  
ーためにー説たーもう。是のー如しー。  
是のー如しー。釈迦牟尼世尊、所説の  
ーごときーはー、皆是真実なーりー。

妙法蓮華經如來壽量品第十六（訓讀）

われー仏をー得てよーりーこのかーた

一、經へたる一所の一諸の一劫數、無量  
百千萬億載さい阿僧祇あそうぎなり一。常に一法を  
一說といて一、無數億の一衆生を一教化  
し一よ一り一このか一た一無量劫な一  
り一。衆生を一度せんが一為ための一故に  
一、方便ほうべんし一て一涅槃ねはんを一現ず一。  
も一實に一は一滅度せ一ず一。常に一而  
しか

此に一住し一て一法を一説く。我れ  
一常に一此に一住すれども一、諸の  
一神通力を一以て一、顛倒の一衆生を  
一し一て一、近し一と一いえども一  
一しかも一見ざらし一む。衆我が一滅  
一度を一見て一、広く一舍利を一供養し  
一、咸く一み一な一恋慕を一懷い一て  
一、渴仰の一心を一生ず。衆生既に

一信伏し一、質直に一し一て一意柔軟  
に一、一心に一仏を一見たて一まつら  
んと一欲し一て一、自ら一生命を一惜  
ま一ず一。時に一我れ一及び一衆僧、  
俱に一靈鷲山に一出づ一。我れ一時に  
一衆生に一語かる一。常に一此に一あつ  
て一滅せ一ず一。方便力を一以て一の  
一故に一、滅・不滅ありと一現ず一。

余國に一衆生の一、恭敬し一信樂する  
も一の一あれば一、我ま一た一彼の中  
に一於て一、為に一無上の一法を一説  
く一。汝等これを一聞かず一し一て一、  
但だ一我れ一滅度す一と一謂え一り一。  
我れ一諸の一衆生を一見れば一、苦海  
に一没在せ一り一。かるが一ゆえに一  
為に一身を一現ぜずし一て一、それを

一し一て一渴仰を一生ぜしむ一。そ  
の一心恋慕するに一因て一、乃ち一出  
でて一為に一法を一説く一。神通力  
の一如し一。阿僧祇劫に一おいて一、  
常常に一靈鷲山、および一余の一諸の一  
住処に一あ一り一。衆生劫つきて一、  
大火に一焼かるると一見るときも一、  
我が一此の土は一安穩に一し一て一、

てんにんつね  
天人常にー充满せーりー。園林諸のー  
どうかく  
堂閣、種種のー宝をー以てー莊嚴しー、  
ほうじゅーけーかーおお  
宝樹華果多くーしーてー、衆生のー遊  
らく  
楽する所なーりー。諸天天鼓をー擊て  
しょーてんてんくー  
ー、常にー諸のー伎樂をー作しー、曼  
もうちろ  
ー、  
だらけー  
陀羅華をー雨しーてー、仏及びー大衆  
ほどけーおよ  
にー散ずー。我がー淨土はー毀れーざ  
わ  
にー  
さん  
るにー、而もー衆はー焼けつきてー、  
しか  
しゅー  
しゃ

憂怖諸の苦惱、是の如き悉く  
充满せりと見る。是の諸の罪  
の衆生は、惡業の因縁を以て  
一、阿僧祇劫を過ぐれども、  
三宝の名を聞かず。諸のあら  
ゆる功徳を修し、柔和質直な  
るもののは一、則ち一皆我身  
つて一、法を説くと見る。或る  
つて一、法を説くと見る。或る

時は一此の衆の一為に一、仏壽無量なりと一説く。久しきくあつて一乃し一仏を一見たて一まつる一者に一は一、為に一仏には一值い難し一と一説く。我が一智力かくの一如し。慧劫、久し一く一業を一修して一得る所光照す一こ一と一無量に一、寿命無數な一り。汝等智あらん者、此に一於

て一疑を一生ずるこ一と一勿れ一。当まき  
に一断じ一て一永く一尽きしむべ一し  
一。仏語は一實に一し一て一虛からず  
を一治せんが一為の一故に一、實に一  
は一在れど一も一、而も一死すと一言い  
うに一、能く一虛妄を一説くも一の一  
無きが一ごとく一、我も一亦こ一れ一

世の父、諸の苦患を救う者なし。  
夫の顛倒せるを為てし、  
實に一は一在れども一而も一滅すし。  
と一言。常に一我を一見るを以て  
一の一故に一、而も一憍恣の一心を一  
生じ、放逸に一しにて一五欲に一著  
し、惡道の一中に一墮ちなん。我れ  
一常に一衆生の一、道を行じ一道を

一 行ぜ一ざるを一知て一度すべき所に  
一隨つて一、為に一種種の一法を一説  
く。毎に一自ら一この念を一作す。  
何を一以て一か一衆生を一し一て一、  
無上道に一入り一、速に一仏身を一成  
就することを一得せし一めんと一。

## 想

(読誦・唱題の功德を想念する)

唱え奉る妙法は、是れ三世諸仏所証の

きょうがい 境界、じょうぎょうさつたりょうぜんばつ しんじょうだいほう  
り。ひと 上行薩埵靈山別付の真淨大法な  
れば、ひと 一たびも南無妙法蓮華経と唱え奉  
常寂光土現前し、すなわ とな  
我ら行者一切衆生と同く、いちねんさんぜんしようかんじょうじゅ  
居して自受法樂せん。この法音を運し  
て法界に充滿し、三宝に供養し、普く  
衆生に施し、大乗一実の境界に入らし

め、仏土を厳淨し、衆生を利益せん。

## 如說修行鈔

(日蓮聖人のお言葉)

天下万民、諸乗一仏乗となつて妙法獨  
り繁昌せん時、万民一同に南無妙法蓮  
華経と唱え奉らば、吹く風枝をならさ  
ず、雨壞を碎かず。代は義農の世  
となりて、今生には不祥の災難を払い、  
長生の術を得、人法共に不老不死の理

あらわ  
顯れん時ときを御覽ぜよ。現世安穩ごらんの証文、  
うたが  
疑い有る可からざる者ものなり。

(注) 義農の世……平和な世界

## 唱しょう

## 題だい

お題目には法華經のすべてが集約されており、  
お題目を唱えることは修行の中心です。  
(合掌して朗々と唱えましょう。)

南無妙法蓮華經(ん)  
南無妙法蓮華經(ん)  
……  
南無妙法蓮華經(ん)  
(最後のみ ほーれーんげーきょうー)

(一息に三唱程度、適宜に唱える)

# 宝塔偈

法華經を持つ功德を感謝して  
信心を増進すること。

^・・||つめて読む

此經難持  
若暫持者

我即歡喜  
がそくかんぎ

諸仏亦然

如是之人  
諸仏所歎  
しょぶつしきーたん  
しよふつしきーたん

則為疾得 そく・ゆうみよう

是則精進  
ぜそく しあうじん

能於來世讀持此經

是真仏子

じゅうじゅんぜんじー

佛滅度後能解其義

是諸天人

世間之眼

於恐畏世能須臾節

一  
切  
天  
人

# 皆応供養

# 回向文

(唱題読誦の功德を自分の志す方へ回わして向ける)

## 【お仏壇回向、追善回向】

謹 み 敬 て 仏 法 僧 三 宝 の 御 前 に 於 て 読 誦  
し 奉 る 大 乗 妙 法 蓮 華 経 、 唱 え 奉 る 御 題  
目 等 鳩 る 所 の 功 德 、 「 ○ ○ 家 先 祖 代 々  
の 諸 精 靈 、 ○ ○ の 靈 位 ( 本 日 第 ○ )  
○ 回 忌 を 営 む と こ ろ ○ ○ ○ ○ の 靈 位 ) 」  
に 向 し 以 て 報 地 を 莊 巖 す 。

願くは、この読誦唱題の音声は法界に  
周遍し、回向の心念もまた法界に遍く、  
功德悉く、「○○家先祖代々の諸精靈・  
威を加え福を増さしめ給え。  
女人有て、妙法華経を聞いて淨心に信  
経により人に曰く、未來世の中に若し善男子善  
にありて、未來世の中にも若し善男子善

敬して疑惑を生ぜざらん者は、三惡道  
に墮ちずして十方の仏前に生ぜん。所  
生の所には常にこの経を聞かん。若し  
人天の中に生るれば勝妙の樂を受け、  
若し仏前に在らば蓮華より化生せんと。  
願以此功德・普及於一切・我等与衆生・  
皆俱成仏道。南無妙法蓮華經（三唱）。

（四誓・奉送）

（注）三惡道……地獄・餓鬼・畜生

# 【お床、月並看経、一般回向】

穩のん、五穀成就ごこじょうじゅ、万民快樂。banminkeらく。当家とうけ（当講こうこう）  
屋中各家やちゅうかくけ）家内かない、安全あんぜん、家門かもんはんえい、繁榮かぞくめい、交通こうつう  
安全あんぜん、息災延命そくさいえんめい、子孫しそんちょうきゅう長久、家族かぞくの銘めい  
々無始以來、六根懺悔ろくこんさんげ、罪障消滅ざいしょうしようめつ。  
國に謗法の音なくんば万民數を減ぜず、  
家に讚経の勤めあらば七難必ず退散せ  
しめん。更に願くは、当家へ当講屋中とうこうやちゅう  
各家一門の諸精靈、總そう

じては法界海有縁・無縁の諸精靈、斷  
迷開悟、離苦得樂、妙法経力即身成仏、  
乃至法界、平等利益。  
南無妙法蓮華経（三唱）・（四誓・奉送）

謹み敬て上來鳩る所の功德、仏法僧三  
宝に回向し、護世護法の善神、殊には  
大日天王（開運北辰妙見大菩薩）に法樂

## 【お日待（妙見講）回向】

し奉る。仰ぎ願くは、一天四海、皆帰たまつ  
妙法、國土安穩、五穀成就、万民快樂。  
当講屋中各家、家内安全。家族の銘々、  
信力不退にして身體健全、交通安全、  
一切無障礙と守護せしめ給わんことを。  
南無妙法蓮華經（三唱）・（四誓・奉送）

# 四

各 唯  
到 翁  
隨 諸  
所 聖  
安 衆  
  
 (付) 送  
後 決  
復 定  
垂 証  
哀 知  
赴 我

(この道場に来迎せる聖衆をお送りする  
御文であり、莊重にお唱えすること。)

法 衆  
南 門 生  
無 無 無  
妙 尽 边  
法 誓 誓  
蓮 莲 莲  
華 知 度  
經 (付) 誓  
佛 煩 惱  
道 無 数  
無 上 誓  
願 誓 誓  
成 斷 斷

(四つの誓いをお唱えして、誓願に生  
きることを仏祖三宝に約束する。)

(覚え書き欄)

戒

名

(俗名・行年・命日など)

【令和二年  
第二版】